【電力不足で年末にかけて生産拡大にブレーキの可能性】

2004 年 8 月 25 日　鈴木貴元　研究員

～生産鈍化の一因は深刻な電力不足にも

7 月の工業生産は前年同月比 15.5%増と、5 か月連続で鈍化した。生産鈍化の背景としては、昨年 6 月以降、段階的に強化されている投資抑制策の影響や高額耐久消費財ブームの一巡など需要側の要因も考えられるが、最近では電力不足といった供給側の要因が強く働いているようである。本レポートでは、地域別の生産と電力供給の動向を整理し、生産における電力問題の今後を考えた。

～地域毎の生産動向と発電量の関係

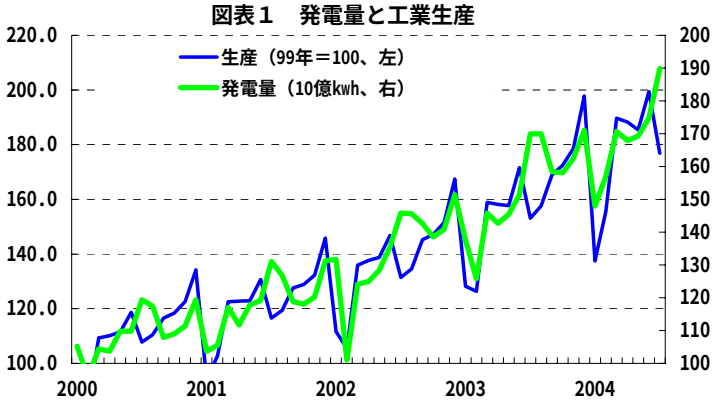
2000 年から 2003 年の 4 年間で、電力（発電量）・生産ともそれぞれ約 1.8 倍拡大した（図表１）。ただし、季節パターンはやや異なる。生産は例年、1-3 月期は春節要因により大幅に落ち込み、4-6 月期は高水準。7・8 月は少々落ち込み、9 月以降は増加傾向となる。一方発電量は、おおむね生産のパターンに一致するが、7・8 月は冷房用の需要が急増するために、発電量が生産を大きく上回る。エアコンの普及とともに、そのかい離幅は年々大きくなっている。2004 年もおおむねこのパターンを辿っており、冷房用の電力需要が落ち込む秋には電力需要も緩和に向かい、生産の増勢が再度強まると期待される。

生産と発電量の関係を地域別に見ると（図表２、地域別生産の統計に実質値がないため名目値で代用した。ちなみに、大都市部は物価上昇率が低く、地方部は高い傾向がみられる）、**東北**は、エネルギー資源が豊富なため、これまで電力供給制限を行っていない。しかし 2002 年半ば以降、生産の拡大テンポが発電量の拡大テンポを大きく上回るようになっており、不足には至らないものの、電力余剰感は急速に薄れている。2002 年の新規発電設備設置における東北のシェアは全国の５%以下であり、過去の投資不足がたたっているようである。

華北は、河北省や山西省、内蒙古自治区が豊富なエネルギー資源を持っているが、2003 年以降の急激な生産拡大により、足元の電力需給は逼迫している。「中国電力市場分析与研究」（2003 年秋季報告）によると、華北は、山西省と内蒙古自治区で電力多消費型産業の発展が急速に進んでいるようだ。また、2003 年には河北省、山西省、内蒙古自治区に限られた停電が、2004 年 1-3 月期に天津市、夏場に入って北京市へと拡大している。2002 年の新規発電設備の設置は、山西省と内蒙古自治区で活発であったが、最大の発電基地である河北省で停滞しており、この影響が現れたようである。

華東は、安徽省や福建省が比較的豊富なエネルギー資源（福建省については原発）を持っているが、2002 年以降は急激な生産拡大に対して、電力供給がまったく追いついていない。そのため、華東の電力網以外からも大量の電力供給を受けている。しかし、供給元の中西部で電力多消費型産業が急成長しており、華東への供給が華中・西北地域の電力不足を引き起こしている状況である。2002

図表１　発電量と工業生産



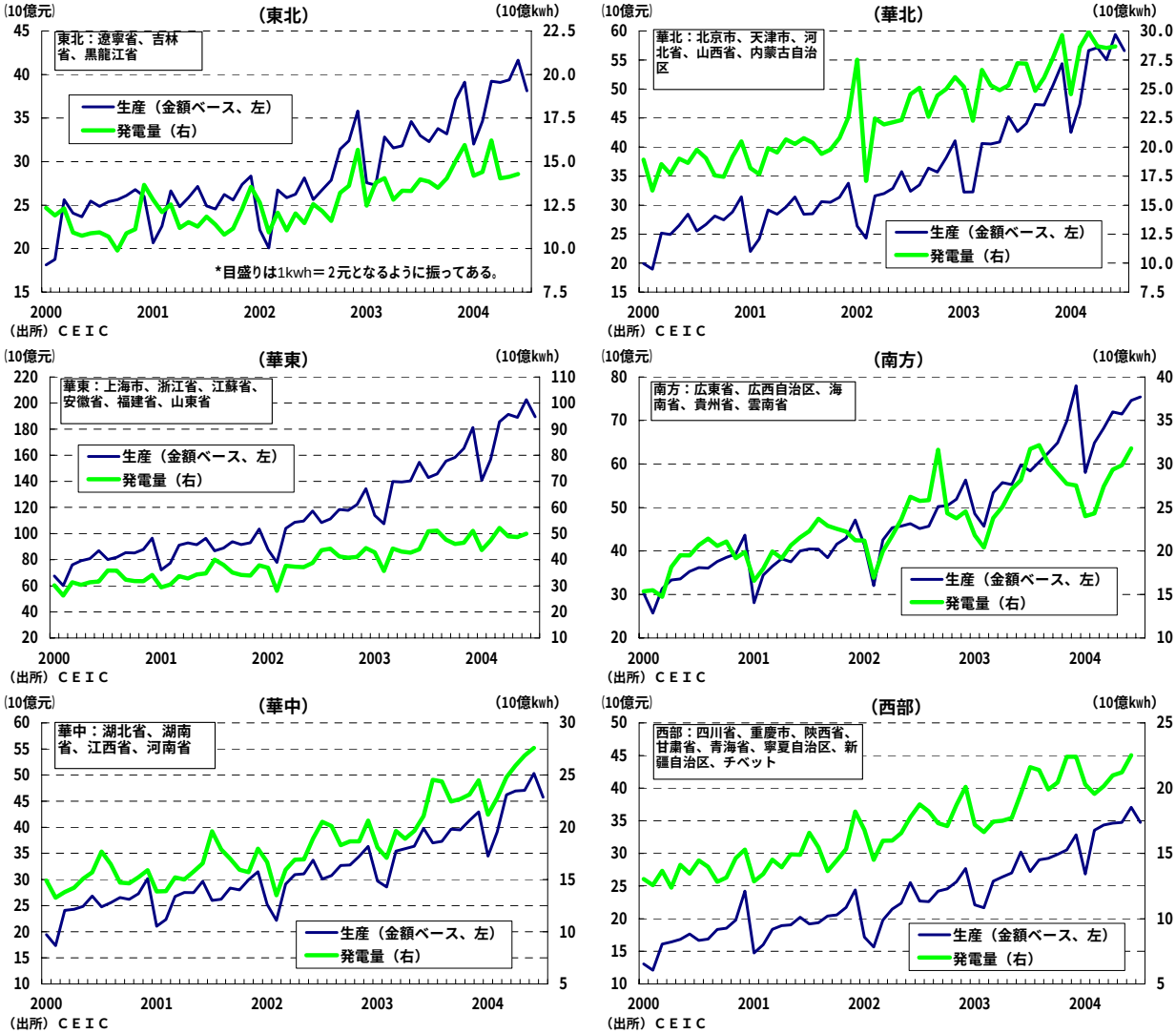
（注）99年の各月の生産指数はUFJ総研推計
（出所）ＣＥＩＣよりUFJ総研作成

年の新規発電設備を見ても、浙江省以外での増強がみられず、この影響もたたったようである。

南方は、2003 年半ば頃までは、貴州省や雲南省にしわ寄せが行きながらも生産拡大に見合った電力供給がなされていた。しかし、2003 年後半以降は、貴州省や雲南省からの融通では間に合わなくなり、四川省三峡ダムなどからの供給を増やしている状況である。2002 年の新規発電設備は、広東省を除くと停滞していた。

華中・西部は、エネルギーが余剰な状態にあるが、甘粛省や寧夏自治区などにおける電力多消費型産業の台頭もあり、停電と無関係ではなくなりつつある。2002 年の新規発電設備は小規模であり、電力投資不足もたたっているようである。

～まとめ

華東の生産拡大に対する電力不足が著しいが、華北、南方でも電力不足が拡大している。さらに余剰地域である華中・西部における電力多消費型産業の勃興もあり、電力不足地域への支援の余裕は少なくなっている。2003 年半ば以降は、明らかに発電量が生産の制約要因になっている。政府の計画する年間 3000 万～4000 万 kwh の発電容量増強は、2004 年分は前倒しに実施されており、年末にかけて大幅に増強する状況ではない。仮に年末の発電量が例年ピークとなる 7 月とほぼ同水準に留まるとすると、それに見合う 12 月の生産の伸びは前年同月比 4 %減となる（昨年 12 月は増値税還付率引き下げ前の駆け込み生産があったことも影響。11 月の発電量が 7 月と同水準とすると同月の生産の伸びは同 7%増）。

図表２　地域別発電量と名目生産